

経営比較分析表（令和6年度決算）

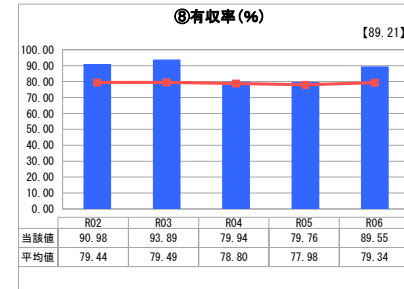
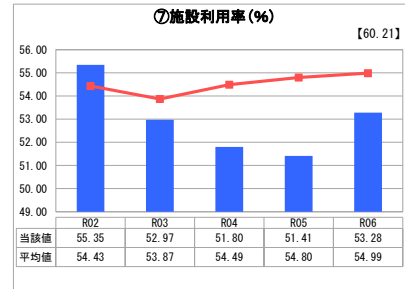
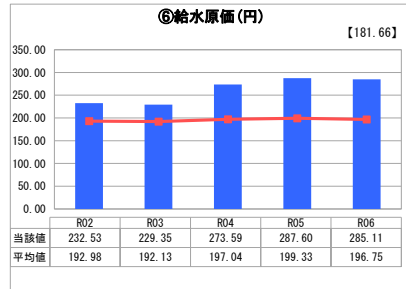
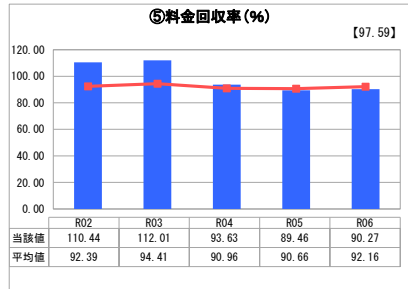
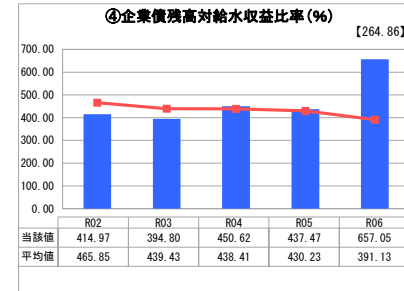
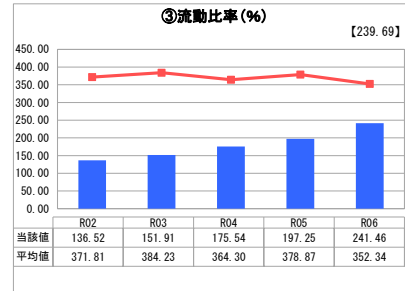
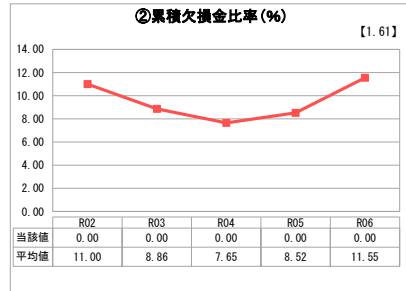
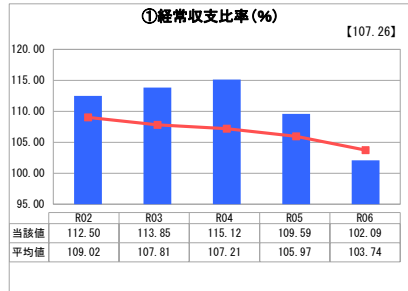
北海道 芽室町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり客単料金(円)	
-	63.01	91.22	5.247	

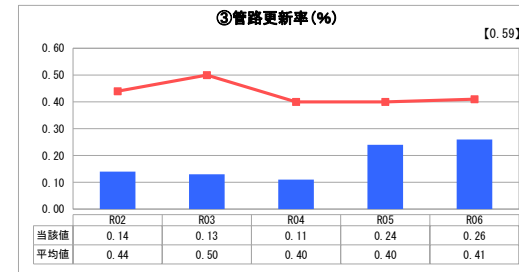
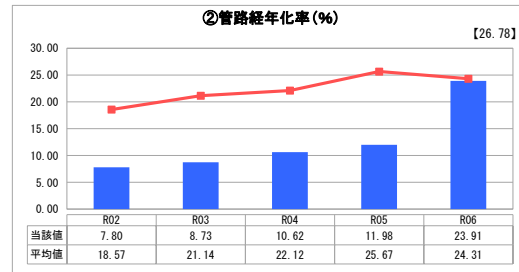
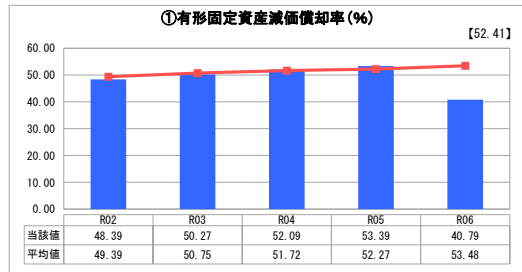
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
17,773	513.76	34.59
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
16,104	211.95	75.98

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析概

1. 経営の健全性・効率性について

本年度より簡易水道事業を統合したことに伴い、経常収支比率は前年度より低下し102.09%となった。依然として黒字経営は維持しているものの、類似団体平均と同水準まで収支差が縮小しており、統合による維持管理費等の増加が影響している。今後は、令和8年度に予定している経営戦略の改定において、上水道と簡易水道事業を統合した今後10年間の投資財政計画を策定し、将来的な更新需要を考慮した上で料金改定の必要性についても検討する。

2. 老朽化の状況について

簡易水道事業の統合により、有形固定資産減価償却率は40.79%へと改善した一方、管路経年化率は11.98%から23.91%へと上昇した。これは、統合された区域に法定耐用年数を超過した管路が多く含まれていることが主な要因である。施設全体としては比較的健全な数値となったが、管路の老朽化は進んでいるため、計画的な更新を実施していく。

全体総括

簡易水道事業との会計統合により、事業規模が拡大するとともに、資産構成や経営指標に大きな変化が生じた年度となった。経営の健全性は維持されているが、管路経年化率が上昇しており、更新需要が顕在化している状況にある。今後は、統合後の新たな資産状況に基づいたアセットマネジメントの実践と経営戦略の改定により、効率的な運営と更新投資を目指す。